

【表紙】

【提出書類】 半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2025年11月7日

【中間会計期間】 第79期中(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

【会社名】 木村化工機株式会社

【英訳名】 KIMURA CHEMICAL PLANTS CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 取締役会長兼取締役社長 小 林 康 眞

【本店の所在の場所】 兵庫県尼崎市杭瀬寺島二丁目1番2号

【電話番号】 06(6488)2501(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理部門長 藤 井 克 祐

【最寄りの連絡場所】 兵庫県尼崎市杭瀬寺島二丁目1番2号

【電話番号】 06(6488)2501(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理部門長 藤 井 克 祐

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第78期 中間連結会計期間	第79期 中間連結会計期間	第78期
会計期間	自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日	自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日	自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日
売上高 (百万円)	12,346	12,456	26,431
経常利益 (百万円)	1,480	1,178	3,084
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益 (百万円)	1,007	801	2,309
中間包括利益 又は包括利益 (百万円)	878	1,080	2,198
純資産額 (百万円)	17,813	19,368	19,133
総資産額 (百万円)	31,556	33,194	33,909
1株当たり中間 (当期)純利益 (円)	50.89	40.49	116.61
潜在株式調整後 1株当たり中間 (当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	56.5	58.3	56.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	255	1,233	2,576
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	296	1,396	427
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	816	124	612
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高 (百万円)	6,985	7,133	9,892

- (注) 1. 当社は中間連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 当社は、「役員向け株式交付信託」を導入しております。
当該信託に残存する当社株式は、中間連結財務諸表において自己株式として計上しております。
当該信託に残存する当社株式は、1株当たり中間(当期)純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

2 【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、当半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

(業 績)

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、米国の通商政策による影響が一部にはみられるものの、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果もあり、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、地政学リスクの継続や円安によるエネルギー価格・原材料価格の高止まりに加え、米国の通商政策の影響による海外景気の下振れ懸念および金融資本市場の変動等による影響から依然として先行き不透明な状況が続いております。

また、当社の業績に影響のある国内向け設備投資につきましては、人手不足の深刻化、物価高の継続、海外景気の減速、米国の通商政策による企業収益の悪化、人件費をはじめとした投資コストの増加懸念等もあり設備投資への慎重姿勢が維持され、投資計画自体を見直す企業もある中で、老朽設備の維持・更新投資を中心に景気に左右されづらい情報化投資や研究開発投資、昨今重要性が高まっている脱炭素に向けた環境対応投資、DXおよび省力化への投資等が下支えとなり、底堅く推移しました。

このような状況のもと、当中間連結会計期間における業績につきましては、受注高は 11,369百万円と前年同期に比べ 2,739百万円の減少（ 19.4% ）となり、売上高は 12,456百万円と前年同期に比べ 109百万円の増加（ + 0.9% ）となりました。

損益面につきましては、営業利益は 1,137百万円と前年同期に比べ 298百万円の減少（ 20.8% ）、経常利益は 1,178百万円と前年同期に比べ 301百万円の減少（ 20.4% ）となり、親会社株主に帰属する中間純利益は 801百万円と前年同期に比べ 205百万円の減少（ 20.4% ）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

エンジニアリング事業

化学機械装置の設計・製作・据付工事を行うエンジニアリング事業につきましては、設計・製作・調達・現地工事・工程管理・試運転までを一貫して行うプラントエンジニアリング（EMPC）方式での受注拡大、および省エネ型であり、また、脱炭素・循環型社会の実現に向け地球温暖化対策として有効であるCO₂排出量を大幅に削減する蒸留・蒸発装置、機器等の受注拡大を図るべく、当社が得意とする固有技術を前面に打ち出した企画提案や新製品等の情報発信を積極的に行うとともに、特に、一般社団法人環境共創イニシアチブが運営する「令和6年度補正予算 省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業」における先進設備・システムに採択された5つの装置について、積極的な営業活動を行いました。

その結果、受注高は 2,020百万円と前年同期に比べ 770百万円の減少（ 27.6% ）、売上高は 3,572百万円と前年同期に比べ 319百万円の減少（ 8.2% ）となり、セグメント利益（営業利益）は 8百万円と前年同期に比べ 163百万円の減少（ 94.8% ）となりました。

「EMPC」とは、プラント建設業界では一般的に知られている「EPC」（設計（Engineering）、調達（Procurement）、建設（Construction）の略）に製造（Manufacturing）の「M」を加えた当社造語（商標登録済み）であります。

化工機事業

化学機械装置の現地工事・メンテナンス業務を行う化工機事業につきましては、一部の企業や業種では高機能・高付加価値商品の需要拡大に伴う増産対応、新製品開発のための起業工事、主力製品の製造設備改修および製造基盤整備等の基盤強化工事を行う動きがみられましたが、景気の先行き不透明な状況が続く中、顧客の多くは設備投資に対する慎重な姿勢を維持したため、既存設備の安定稼働のための定期修理およびメンテナンス工事が主となりました。

その結果、受注高は 5,577百万円と前年同期に比べ 1,475百万円の減少（ 20.9%）、売上高は 5,885百万円と前年同期に比べ 348百万円の増加（ +6.3%）となりましたが、セグメント利益(営業利益)は 629百万円と前年同期に比べ 83百万円の減少（ 11.7%）となりました。

エネルギー・環境事業

原子力を含むエネルギー・環境関連機器の設計・製作・据付工事を行うエネルギー・環境事業につきましては、主として福島第一原子力発電所関連の廃炉・廃止措置に向けたデブリ処理に対応する分析施設や遠隔対応可能な保守装置等の各種装置・除染対応業務、および核燃料サイクル施設では青森県六ヶ所村でのMOX燃料（ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料）加工工場の竣工に向けた新規制基準対応業務や仕様変更に伴う現地での追加工事を受注すべく営業活動を展開いたしました。

その結果、受注高は 3,771百万円と前年同期に比べ 493百万円の減少（ 11.6%）、売上高は 2,997百万円と前年同期に比べ 80百万円の増加（ +2.7%）となりましたが、セグメント利益(営業利益)は 499百万円と前年同期に比べ 52百万円の減少（ 9.5%）となりました。

なお、当社グループは、通常の営業形態として、年度末に完成する工事の割合が大きいため、年度末に売上が集中する傾向にあります。

(財政状態)

(資産)

流動資産は 21,829百万円と前連結会計年度末に比べ 2,565百万円の減少（ 10.5%）となりました。

固定資産は 11,365百万円と前連結会計年度末に比べ 1,849百万円の増加（ +19.4%）となりました。主な要因は、長期預金の増加などであります。

この結果、総資産は 33,194百万円と前連結会計年度末に比べ 715百万円の微減（ 2.1%）となりました。

(負債)

流動負債は 9,088百万円と前連結会計年度末に比べ 1,760百万円の減少（ 16.2%）となりました。

固定負債は 4,737百万円と前連結会計年度末に比べ 809百万円の増加（ +20.6%）となりました。主な要因は、長期借入金の増加などであります。

この結果、負債合計は 13,825百万円と前連結会計年度末に比べ 950百万円の減少（ 6.4%）となりました。

(純資産)

純資産合計は 19,368百万円と前連結会計年度末に比べ 235百万円の微増（ +1.2%）となりました。

この結果、当中間連結会計期間末の自己資本比率は58.3%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、営業活動により 1,233百万円減少、投資活動により 1,396百万円減少、財務活動により 124百万円減少したこと等により、当中間連結会計期間期首に比べ 2,758百万円減少し、当中間連結会計期間末には 7,133百万円（前年同期末比 148百万円増加）となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当中間連結会計期間において営業活動により資金は 1,233百万円減少し、前年同期に比べ 978百万円流出が増加いたしました。主な要因は、売上債権の増減額の減少などであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当中間連結会計期間において投資活動により資金は 1,396百万円減少し、前年同期に比べ 1,099百万円流出が増加いたしました。主な要因は、定期預金の預入による支出の増加などであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当中間連結会計期間において財務活動により資金は 124百万円減少し、前年同期に比べ 691百万円流出が減少いたしました。主な要因は、長期借入れによる収入の増加などであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当中間連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

また、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針については、その内容等に重要な変更等はありません。

(4) 研究開発活動

当中間連結会計期間の研究開発費の総額は 90百万円であります。

なお、当中間連結会計期間において、当社グループの研究開発の状況に重要な変更はありません。

3 【重要な契約等】

当中間連結会計期間において、重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	82,400,000
計	82,400,000

【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (2025年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2025年11月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,600,000	20,600,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	20,600,000	20,600,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2025年9月30日		20,600		1,030		103

(5) 【大株主の状況】

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	2025年9月30日現在 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有 株式数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区赤坂 1 - 8 - 1	1,921	9.32
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海 1 - 8 - 12	1,359	6.59
木村化工機関連グループ持株会	兵庫県尼崎市杭瀬寺島 2 - 1 - 2	1,184	5.75
キムラ従業員持株会	兵庫県尼崎市杭瀬寺島 2 - 1 - 2	1,005	4.88
株式会社奥村組	大阪市阿倍野区松崎町 2 - 2 - 2	969	4.70
光通信 K K 投資事業有限責任組合	東京都豊島区西池袋 1 - 4 - 10	847	4.11
小 林 康 真	大阪府豊中市	617	2.99
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内 1 - 6 - 6	613	2.97
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内 1 - 4 - 1	600	2.91
木 村 孝 吉	兵庫県西宮市	418	2.03
計	-	9,535	46.29

- (注) 1. 当中間会計期間末現在における、三井住友信託銀行株式会社の信託業務に係る株式数については、当社として把握することができません。
2. 株式会社日本カストディ銀行(信託口)の所有株式数の内 793千株は、当社が導入した「役員向け株式交付信託」(受託者:三井住友信託銀行(信託E口))に係る再信託受託者として所有する当社株式であります。なお、当該当社株式は、連結財務諸表において自己株式として計上しております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2025年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 20,570,200	205,702	
単元未満株式	普通株式 29,700		1 単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	20,600,000		
総株主の議決権		205,702	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が 13,000株(議決権 130個)含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、「役員向け株式交付信託」が保有する当社株式が 793,603株(議決権7,936個)含まれております。なお、当該議決権は、議決権不行使となっております。

【自己株式等】

2025年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 木村化工機株式会社	兵庫県尼崎市杭瀬寺島 2 - 1 - 2	100		100	0.00
計		100		100	0.00

(注) 自己保有株式には「役員向け株式交付信託」が保有する当社株式 793,603株は含まれておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．中間連結財務諸表の作成方法について

当社の中間連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号の上欄に掲げる会社に該当し、連結財務諸表規則第1編及び第3編の規定により第1種中間連結財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間(2025年4月1日から2025年9月30日まで)に係る中間連結財務諸表について、仰星監査法人による期中レビューを受けております。

1 【中間連結財務諸表】

(1) 【中間連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,892	7,133
受取手形、売掛金及び契約資産	10,222	10,934
電子記録債権	2,188	1,332
仕掛品	1,427	1,904
原材料及び貯蔵品	67	68
その他	610	470
貸倒引当金	15	14
流動資産合計	24,394	21,829
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,772	2,008
機械装置及び運搬具（純額）	259	265
工具、器具及び備品（純額）	124	132
土地	3,711	3,739
リース資産（純額）	35	67
建設仮勘定	53	124
有形固定資産合計	5,957	6,337
無形固定資産	62	67
投資その他の資産		
投資有価証券	2,024	2,448
退職給付に係る資産	950	965
繰延税金資産	461	342
長期預金	-	940
その他	62	267
貸倒引当金	3	3
投資その他の資産合計	3,494	4,960
固定資産合計	9,515	11,365
資産合計	33,909	33,194

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,914	2,166
電子記録債務	2,067	839
短期借入金	515	665
リース債務	16	20
未払法人税等	495	429
前受金	3,567	3,973
賞与引当金	503	386
役員賞与引当金	1	-
工事損失引当金	-	7
完成工事補償引当金	107	101
その他	658	499
流動負債合計	10,848	9,088
固定負債		
長期借入金	990	1,570
リース債務	21	49
役員株式給付引当金	491	581
長期未払金	56	56
退職給付に係る負債	1,241	1,297
資産除去債務	55	80
再評価に係る繰延税金負債	998	998
その他	72	102
固定負債合計	3,927	4,737
負債合計	14,776	13,825
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,030	1,030
資本剰余金	128	128
利益剰余金	15,163	15,121
自己株式	509	509
株主資本合計	15,813	15,770
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	796	1,090
繰延ヘッジ損益	-	0
土地再評価差額金	2,172	2,172
退職給付に係る調整累計額	351	333
その他の包括利益累計額合計	3,319	3,597
純資産合計	19,133	19,368
負債純資産合計	33,909	33,194

(2) 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
売上高	1 12,346	1 12,456
売上原価	9,553	9,720
売上総利益	2,792	2,735
販売費及び一般管理費	2 1,356	2 1,598
営業利益	1,436	1,137
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	43	43
受取賃貸料	5	5
その他	5	8
営業外収益合計	54	59
営業外費用		
支払利息	3	6
為替差損	3	3
支払手数料	1	3
その他	1	4
営業外費用合計	10	18
経常利益	1,480	1,178
特別利益		
国庫補助金	-	40
特別利益合計	-	40
特別損失		
固定資産除却損	-	21
特別損失合計	-	21
税金等調整前中間純利益	1,480	1,198
法人税等	472	396
中間純利益	1,007	801
親会社株主に帰属する中間純利益	1,007	801

【中間連結包括利益計算書】

	(単位：百万円)	
	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
中間純利益	1,007	801
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	109	294
繰延ヘッジ損益	0	0
退職給付に係る調整額	20	17
その他の包括利益合計	129	278
中間包括利益	878	1,080
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	878	1,080

(3) 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,480	1,198
減価償却費	136	147
貸倒引当金の増減額（ は減少）	2	0
賞与引当金の増減額（ は減少）	104	117
役員賞与引当金の増減額（ は減少）	1	1
工事損失引当金の増減額（ は減少）	4	7
完成工事補償引当金の増減額（ は減少）	4	6
役員株式給付引当金の増減額（ は減少）	89	90
退職給付に係る資産負債の増減額（ は減少）	15	15
受取利息及び受取配当金	43	45
支払利息	3	6
為替差損益（ は益）	3	3
国庫補助金	-	40
固定資産除却損	1	21
売上債権の増減額（ は増加）	1,694	144
棚卸資産の増減額（ は増加）	66	477
その他の資産の増減額（ は増加）	164	63
仕入債務の増減額（ は減少）	3,064	1,975
前受金の増減額（ は減少）	30	405
その他の負債の増減額（ は減少）	35	172
その他	11	4
小計	244	855
利息及び配当金の受取額	43	45
利息の支払額	3	6
国庫補助金の受取額	-	40
法人税等の支払額又は還付額（ は支払）	540	456
営業活動によるキャッシュ・フロー	255	1,233

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	275	441
無形固定資産の取得による支出	19	12
投資有価証券の取得による支出	2	2
貸付金の回収による収入	0	0
定期預金の預入による支出	-	940
その他の支出	-	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	296	1,396
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	-	1,000
長期借入金の返済による支出	295	270
自己株式の取得による支出	0	-
リース債務の返済による支出	10	12
配当金の支払額	510	842
財務活動によるキャッシュ・フロー	816	124
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	3
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	1,372	2,758
現金及び現金同等物の期首残高	8,358	9,892
現金及び現金同等物の中間期末残高	1 6,985	1 7,133

【注記事項】

(中間連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)	
税金費用の計算	税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)	
(役員向け株式交付信託について) 当社は、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、当社の取締役を対象にした株式報酬制度「役員向け株式交付信託」を導入しております。	
(1)取引の概要 本制度は、当社が定めた「役員向け株式交付規程」に基づき、取締役は、毎期、一定のポイントを付与し、原則として退任時に、付与ポイントに相当する当社株式が交付される仕組みとなっております。 また、取締役は交付する株式については、当社があらかじめ信託設定した金銭により、信託銀行が第三者割当により当社から取得し、信託財産として保管・管理しております。	
(2)会計処理 「役員向け株式交付信託」については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 2015年3月26日)に準じて、総額法を適用しております。	
(3)信託が保有する自己株式 信託が保有する当社株式の信託における帳簿価額は、前連結会計年度 509百万円、当中間連結会計期間 509百万円で、株主資本において自己株式として計上しております。 また、当該株式の株式数は、前連結会計年度 793,603株、当中間連結会計期間 793,603株であり、1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めております。	

(中間連結損益計算書関係)

1 売上高の季節的変動

前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)及び当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

当社グループは、通常の営業形態として、年度末に完成する工事の割合が大きいため、年度末に売上が集中する傾向にあります。

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
給料	326百万円	382百万円
賞与引当金繰入額	153百万円	110百万円
退職給付費用	8百万円	8百万円
役員株式給付引当金繰入額	89百万円	90百万円
貸倒引当金繰入額	2百万円	0百万円

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
現金及び預金	6,985百万円	7,133百万円
現金及び現金同等物	6,985百万円	7,133百万円

(株主資本等関係)

前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年5月10日 取締役会	普通株式	514	25.00	2024年 3月31日	2024年 6月5日	利益剰余金

(注)2024年5月10日取締役会決議による配当金の総額には、「役員向け株式交付信託」が保有する当社株式 793千株に対する配当金 19百万円が含まれております。

2. 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2025年5月9日 取締役会	普通株式	844	41.00	2025年 3月31日	2025年 6月11日	利益剰余金

(注)2025年5月9日取締役会決議による配当金の総額には、「役員向け株式交付信託」が保有する当社株式 793千株に対する配当金 32百万円が含まれております。

2. 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

・報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注1)	中間 連結損益 計算書 計上額 (注2)
	エンジニア リング事業	化工機事業	エネルギー ・環境事業	計				
売上高								
一時点で移転される財又は サービス	1,374	4,873	751	7,000	-	7,000	-	7,000
一定の期間にわたり移転さ れる財又はサービス	2,517	662	2,166	5,346	-	5,346	-	5,346
顧客との契約から生じる 収益	3,891	5,536	2,917	12,346	-	12,346	-	12,346
外部顧客への売上高	3,891	5,536	2,917	12,346	-	12,346	-	12,346
セグメント間の内部 売上高又は振替高	15	170	-	185	-	185	185	-
計	3,907	5,707	2,917	12,532	-	12,532	185	12,346
セグメント利益	172	712	551	1,436	-	1,436	-	1,436

(注) 1. 調整額は以下の通りであります。

売上高の調整額は、セグメント間の内部売上高消去額であります。

2. セグメント利益(合計)は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

・報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注1)	中間 連結損益 計算書 計上額 (注2)
	エンジニア リング事業	化工機事業	エネルギー ・環境事業	計				
売上高								
一時点で移転される財又は サービス	726	3,852	462	5,041	-	5,041	-	5,041
一定の期間にわたり移転さ れる財又はサービス	2,846	2,033	2,535	7,414	-	7,414	-	7,414
顧客との契約から生じる 収益	3,572	5,885	2,997	12,456	-	12,456	-	12,456
外部顧客への売上高	3,572	5,885	2,997	12,456	-	12,456	-	12,456
セグメント間の内部 売上高又は振替高	11	112	547	671	-	671	671	-
計	3,584	5,997	3,545	13,127	-	13,127	671	12,456
セグメント利益	8	629	499	1,137	-	1,137	-	1,137

(注) 1. 調整額は以下の通りであります。

売上高の調整額は、セグメント間の内部売上高消去額であります。

2. セグメント利益(合計)は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり中間純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
1株当たり中間純利益 (円)	50.89	40.49
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益 (百万円)	1,007	801
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る 親会社株主に帰属する中間純利益 (百万円)	1,007	801
普通株式の期中平均株式数 (千株)	19,806	19,806

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり中間純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。1株当たり中間純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、前中間連結会計期間793,603株、当中間連結会計期793,603株であります。

2 【その他】

2025年5月9日開催の取締役会において、2025年3月31日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり期末配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	844百万円
1株当たりの金額	41円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2025年6月11日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年11月 7 日

木村化工機株式会社
取締役会 御中

仰 星 監 査 法 人
大 阪 事 務 所

指定社員 公認会計士 池 上 由 香
業務執行社員

指定社員 公認会計士 稲 積 博 則
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている木村化工機株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、木村化工機株式会社及び連結子会社の2025年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

中間連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間連結財

務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 中間連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) １．上記の期中レビュー報告書の原本は当社（半期報告書提出会社）が別途保管しております。
２．XBRLデータは期中レビューの対象には含まれていません。